

食品化学生新聞



キミカ新オフィス完成予想図

キミカは、千葉県富津市に、オフィス、研究開発ラボ、品質管理ラボ、福利厚生施設を集約した

新オフィスを建設する予定である。新施設の総延べ床面積は3450平米、執務エリアを従来比3倍、研究エリアを4倍と大幅に拡大。「健康志向の高まりに伴う需要増」と「高度化する品質要求」への柔軟な対応を可能とする。今年7月着工、来年7月竣工を予定している。

キミカ新オフィスの品質管理ラボは、オープンな理化学試験エリア、専用エリアとなる機器分析室、微生物試験室、安定性モニタリング室など、医薬品GMPにも対応し、世界水準の研究環境を整える。また、ユーザーとする工夫が施される。

キミカ

千葉新オフィスを建設 社員と環境にやさしい設備を完備

共同開発を行う「食品アブリケーションラボ」を併設、約100名を収容できるセミナー室ではアルギン酸の普及と用途開発の加速が期待される。

さらに、ダイナミックな構造設計による柱のない24×70mの巨大空間は社員間のコラボレーションを引き出し、新たな事業展開への柔軟な対応を可能とする。1階と2階は建物中央に配置されるクロス階段(内階段)でつながっているほか、大階段の周辺にはコミュニケーションスペースが広がる

日本のSDGsの最高賞である「ジャパンSDGsアワード」の特別賞を食品メーカーで唯一受賞した企業として、施設全体の環境対応も徹底し

日本で環境負荷が50%以上削減可能となる。このほか太陽光発電や電気自動車の充電ステーションの導入など、地球環境にやさしい施設を目指し整備

ていく。輻射熱の特性を活かした「次世代型輻射式空調」の採用により、無風・無音かつ温度ムラのないからだに優しい空間を演出。さらに自然エネルギーを有効活用することで、一般的な空調と比べ環境負荷が50%以上削減可能となる。このほか太陽光発電や電気自動車の充電ステーションの導入など、地球環境にやさしい施設を目指し整備

を進めている。
さらに、有事の際の社員の安全確保のためBCP対策の充実を図る。建物全体を50cm底上げしたほか、研究スペースと電気室を2階に配置し水害に備える。また、非常用発電機による電源バックアップで万一の停電に備え、基準の1・25倍以上の耐震性能を付与する見込みだ。